

日本女子大学教授

細川 幸一

消費者の倫理意識について
はどうか。そもそも消費者に
倫理意識がなければ、エシカ
ル消費（倫理的消費）は存在
し得ないが、ここでの倫理と
は何であろうか。

倫理意識



8

消費は、一般に個人が自由
に行うものだと考えられてい
るので、そこに個人の『自
らの行儀』（私的な徳）とし
ての倫理問題は存在するもの
の、社会的な（公の徳として
の）倫理問題が存在すること
を見過ごしていたのではない
かという見解がある（猪木武
徳『倫理的消費とは何か』エ
ネルギー・文化研究所発行『C
EL』2012年1月号）。
その主張を見てみよう。
『私的な徳』の例としては、
無駄や浪費などが挙げられて
いる。一方、『公的な徳』として

想像力と他者への共感心が重要

の社会的な倫理について、消
費行動が同時代の他の人間の
幸福に影響を及ぼすだけでな
く、後の世代の人びとの幸福
をも左右する公共的な性格」
を忘れてはならないとする。
例えば、流行により、ひとつ
の財が圧倒的な勢いで市場を
制覇したために、その財と競
争的・代替的な関係にあった
財が市場から駆逐されて、選
択肢が消えてしまう場合や、
ある財の消費の行き過ぎがそ
の財の供給量を枯渇させ、後
の世代からその財を享受する
可能性を奪ってしまうような
「不平等」であるとする。
かつて「ナタデココ」がマス
コミのおおりのあつて大ブー
ムになり、フィリピンなどの
産地で生産が拡大した。とこ
ろが日本でのブームが去り、
現地の経済は混乱した。現在
はタピオカ人気がすごい。
こうした社会的な倫理意識
の醸成は、環境問題について

はESD（持続可能な開発の
ための教育、Education
for Sustainable Dev
elopment）として教育の
テーマとなっているが、人権
教育なども消費者教育の中で
重要な問題である。
ここで重要なのは想像力で
あり、他者への共感心であろ
う。自ら消費するモノを地球
の裏側で生産する人々への関
心や、日ごろテーブルに並ぶ
食肉が生きものであったとき
に、人間からどのような扱い
を受けてきたのかに思いを馳
せる心が必要である。



ナタデココ

タピオカ